

JENESYS2022 日フィリピン「和食・日本の食品安全」交流の記録 (オンライン招へい)

1. プログラム概要

【目的・概要】フィリピンにおける健康への高い関心と日本食や日本の製品への注目が高まっていることを背景に、フィリピンの学生に和食の魅力や日本の安全な食品への理解を促進し、日本食へのさらなる関心の増進と風評被害の払しょくを目的として、本プログラムを実施しました。一行は、風評被害にあった福島県の食品関連施設の訪問し、日本の食品の安全に向けた取り組みや技術、生産者からどのように新鮮で安全な食品が届けられているのかにつき学習し、SNS等を通じて、母国で日本食の安全・安心につき、広く紹介しました。

【参加者】フィリピンの大学生、調理師学校生 計 87 名

【訪問地】事前学習：東京都、訪日プログラム：東京都、福島県

2. 日程

■ 事前学習（オンライン）：

2022 年

8 月 23 日（火曜日） 【講義・質疑応答】日本理解講義「Japan Today」
講師：SIMA 国際経営研究所 所長 木村 秀夫氏

2023 年

2 月 7 日（火曜日） 【出発前オリエンテーション】訪日プログラム前説明・参加者間交流
訪日前迄の個別学習 【動画視聴】ホームビジット体験、南三陸町からのメッセージ、日本文化理解（京都）、愛知の魅力～産業、最先端技術～、日本語学習、ようこそ日本へ～日本の感染症対策～

■ 訪日プログラム：

2 月 14 日（火曜日） 成田国際空港より入国

2 月 15 日（水曜日） 訪日時オリエンテーション
【視察】新宿調理師専門学校
【視察】明治神宮、原宿

2 月 16 日（木曜日） 【講義】「日本の食品安全」講師：東京海洋大学 学術研究院 食品生産科学部門 教授 松本 隆志氏
【視察】カップヌードルミュージアム横浜

2 月 17 日（金曜日） 東京都から福島県に移動
【視察】日本調理技術専門学校

2 月 18 日（土曜日） 【視察】大和川酒造店

【視察、文化体験】 若喜商店（味噌醤油醸造業）醤油・味噌醸造見学、国有形登録文化財の蔵見学、赤べこ絵付け体験

2月19日（日曜日） 【ホームビジット】 福島県喜多方市の5家庭

【ホストファミリー歓送会】

【ワークショップ】 報告会準備

2月20日（月曜日） 福島県から東京都に移動

【成果報告会】

2月21日（火曜日） 成田国際空港より出国

3. プログラム記録写真

事前学習

	
8月23日【オリエンテーション】	8月23日【講義・質疑応答】日本理解講義「Japan Today」
	
8月23日【講義・質疑応答】 質疑応答の様子	8月23日 記念撮影

訪日プログラム

	
2月15日【オリエンテーション】	2月15日【視察】 新宿調理師専門学校
	
2月16日【講義】「日本の食品安全」 記念撮影	2月16日【視察】カップヌードルミュージアム 横浜にてマイカップヌードル作りの様子

	
2月17日【視察】日本調理技術専門学校	2月18日【視察】大和川酒造店
	
2月18日【視察、文化体験】若喜商店	2月18日【視察、文化体験】赤べこ絵付け体験
	
2月19日【ホームビジット】対面式	2月19日【ホストファミリー歓送会】参加者によるパフォーマンス
	
2月19日【ホストファミリー歓送会】記念撮影	2月19日【ワークショップ】
	
2月20日【報告会】プレゼンテーション	2月20日【報告会】記念撮影

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 大学院生

包括的で有益なディスカッションを提供していただきありがとうございます。昨年初めに日本語を学び始め、今は、日本の文化をもっと学びたいと思っています。日本とフィリピンの異なる文化にも興味があります。私が最も印象に残っているのは、両国間の信頼と相互理解を強化・構築し、文化の違いと情報を共有して日本への世界的な関心を生み出すという JENESYS の目

的です。

◆ **社会人**

日本がユニークで、世界で最も優れた国の一つである理由を理解する素晴らしい機会を与えてくださり心から感謝しています。私がテレビ、本、雑誌、ソーシャル メディアで見て得た知識がすべて、木村先生との議論によって正しいことがわかりました。このプログラムを受講して、私は日本を訪れることがより楽しみになり、胸が高まっています。ありがとうございました。

◆ **大学生**

福島県喜多方市の赤べこ絵付け体験が最も印象的でした。「赤べこ」に絵付けをすることができたのが素晴らしい体験になりました。「赤べこ」にまつわる日本文化のお話が特に印象に残りました。古くから地元の人々の願いを叶えるという言い伝えがあり、特に今回のコロナ禍では、世界中の人々の健康と回復に祈りをささげることで日本人にとって大きな力になったというご説明に感銘を受けました。

◆ **大学生**

最も印象に残っているのは、ホームビジットとカップヌードルミュージアム横浜です。ホームビジットでは、日本の文化や人々がいかに素晴らしいか目の当たりにし、感銘を受けました。ホストファミリーは私たちを心から受け入れてくださり、真心のこもったおもてなしを受けることができました。カップヌードルミュージアム横浜では、施設全体を運営するための革新的で創造的な技術がとても印象的でした。

◆ **大学生**

最も印象的だったのは大和川酒造店で、施設を見学して色々な酒を試飲することができました。説明も素晴らしく、店の歴史や豊かな伝統、生き生きとした文化等について興味深いお話をうかがいました。この日の素晴らしい体験はずっと記憶に残ることと思います。参加者全員にとって、唯一無二の忘れがたい経験となりました。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

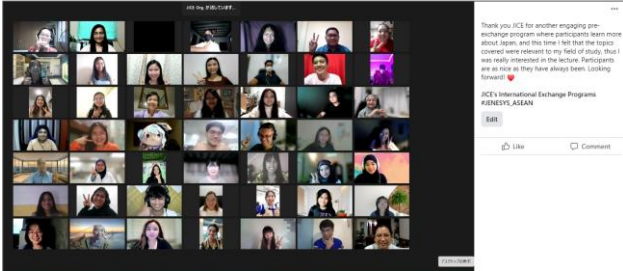
◆ **講師**

外部の方を本学に受け入れて講演をする機会が初めてで、慣れない点もあったと思います。今回の講演を機に、より良い交流ができるように努めたいと思います。

◆ **協力団体**

3年ぶりとなる対面でのホームビジットは参加者にとっても、日本人の暮らしや食文化、日本人を理解する上でとても重要であり、良かったと思います。またホストファミリーにとっても、フィリピン人を理解することができたと思います。

6. 参加者の対外発信（抜粋）

	
2022 年 8 月 23 日 (Facebook) 日本についてより深く学べる魅力的な「日ブルネイ交流」プレプログラムに再び参加できて感謝します。今回のプログラムの講義は、トピックが私の研究分野に関連していたので本当に面白かったです。プログラムの参加者はいつも感じの良い方たちです。これからも楽しみにしています。	2022 年 8 月 23 日 (Facebook) ブルネイとフィリピンのための JENESYS オンライン・プログラムの参加者の一人になれてとても嬉しいです！ 木村先生から日本の科学と工業生産における日本の技術的進歩について楽しく学びました。 いつかきっと私も日本の素晴らしさを体験できると思っています。
	
2023 年 2 月 14 日 (Facebook) 日本着陸 2023 年 2 月 14 日 私たちは、日本の成田国際空港に午後 4 時頃到着し、飛行機を降りてまず気付いたことが、空港のプロセスが効率的であることです。検疫手続きから預け荷物の受取、税関申告、入国審査などがすべて 10 分以内に終わりました。日本は貴重な時間を絶対に無駄にしないことがわかります。	2023 年 2 月 17 日 (Instagram) 新幹線に乗って福島に行きます。新幹線は移動するのに最も速く、最も快適な乗り物です。また、新幹線は最速時速 320 キロに達します。

	
2023 年 2 月 18 日 福島県喜多方市での赤べこ絵付け体験	2023 年 2 月 19 日 (Facebook) 喜多方市でのホームビジットを無事終えることができました。ホストファミリーの方、暖かなおもてなしを有難うございました。茶道や日本の食べ物は素晴らしかったです。また、日本に来たいと思います。

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表（抜粋）

フィリピン招へい（和食・日本の食品安全）	
	
プロジェクト内容「日本文化をフィリピンへ」 ■ 実施内容 ① 日本酒、お茶などの試飲会を行う ② 体験型文化体験を実施する ③ 日本人の基本的な食の安全対策について紹介する ④ まな板カッティング用シート、手袋を用意し、テーブルにお絞りを置く ⑤ 日本の食の伝統とその重要性について紹介する ⑥ お箸を使い、「いただきます」や「ご馳走様」などの挨拶を言う ⑦ 日本食と日本文化の相互関係を紹介する ■ 実施理由 プログラムで学んだ日本文化と伝統の経験（特に食文化）を共有し、フィリピン人に日本文化を体験してもらう ■ 実施方法 ① 様々な学校や機関と提携	

(国家青年委員会、観光庁、カランバ青少年育成事務所、Anihan テクニカルスクール、Barangay Milagrosa^(注)の自治機関)

② フィリピンの日本人コミュニティと連携

③ 日本文化の紹介に使用したい品物を購入し、フィリピンに持ち帰る

^(注) フィリピンの自治体は、Province (州)、City (市)、Municipality (町)、Barangay (バラングアイ) から構成され、Barangay は最小自治単位。Milagrosa (ミラグローサ) は、カランバ市内の Barangay の一つ。

■ 実施時期

2023 年 4 月頃

■ 実施する者

プログラムに参加したメンバー

■ 実施対象者

カラバルソン地方とマニラ首都圏に在学している学生

■ トピック

① 日本においては、戸外、トイレ、リビングルームで異なるサンダルやスリッパをはく習慣があること

② 日本においては、食べ物の盛り付けについて解説があること

③ 弁当、食べ物を小皿にとる習慣の理由

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター (JICE)